

山田ゼミ新聞

写真は2009年12月16日発行の「山田ゼミ新聞 山田教授教員30周年記念号」である。今から10年ほど前になるが、名古屋市立大人文社会学部の山田ゼミ7人が協働して作り上げた新聞である。優れたパソコン「技術」をもったゼミ生もいて、本格的な新聞ができあがり、私の教員30周年を祝ってくれた。それから5年後の2014年に35年の教員生活を終えた。

教員生活で印象に残るのは、講義のなかでもゼミナールである。名古屋市立女子短大時代から、毎年多くの学生がゼミに参加してくれた。ゼミでの報告をもとに卒論を作成し、卒業していった。卒論テーマで卒業生の顔が浮かんでくる。

久しぶりに新聞を読んで、「気になるあの人」欄に掲載された投稿に注目した。私の写真に「とても笑顔の素敵な山田先生。しかし、世の中を見る時の眼はいつもするどい」などと。教員時代を思い出す。抜粋して紹介したい。

「現実社会のさまざまな利害関係を分析、調整できる能力を持つ人材を育成」を育成するために、私なりに講義に力を入れてきたつもりだ。とりわけ社会調査実習とゼミは、少人数教育のもとで人材育成を実践する「場」として重視してきた。最近のゼミ生の卒論テーマは「まちづくり」が多くなっている。私の問題関心にもよるが、現代社会学科の特色を活かせるテーマだからであろう。

1979年に大学教員となり、それから30年が経過した2009年。記憶にのこる年だ。この年の11月24日には、母が亡くなった。

(2019年1月23日)

